

60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9



明治八年

大阪新錦

敵討堂

鼻焼くよ

敵討堂の横

詠りせしに

て春の日に男が二又も焼死

せし當三月の四日にて奈良縣下なる若押山麓と分る處事には非を

過に三笠山麓の例事駈し事なるも六麓の草に火を付て容易に

草は焼尽すとカ、絶頂小憩ひし思ひの外に風をけし

敵討せんと苛きとも猛火四方を焚きて是非なく

死せし哀まよる是の如くも許人も万事に付て油断る命を失ひ

賊を失ふ世間には此類此なりとせよ身の用心火の用心

狸々堂九仙球

信改二代  
子美信堂

しんご

